

## 鹿児島県の田布施



### 一覧

- 多夫施神社 593.28km - 大阪護国神社 - 刈田嶺神社 593.28km
- 南方神社 596.06km - 阿部野神社 - 吉祥院 596.06km
- 日枝神社 606.43km - 吉野神宮 - 出羽三山神社 606.43km
- 知覧平和観音 616.77km - 大神神社三鳥居 - 大物忌神社 616.77km
- 墓? 616.79km - 大神神社拝殿 - 大物忌神社 616.79km

### 詳細

- 多夫施神社 593.28km - 大阪護国神社 - 刈田嶺神社 593.28km

多夫施神社（勝手大明神）

祭神/受鬘命（うけのりのみこと）と塩土神

由緒 創建は聖武天皇神亀元年（724）と伝えられ、明治以前は勝手大明神と称していた。島津家歴代の藩主の信仰が厚く、鎧・刀・和歌等が寄進された。伝説によると、瓊々杵尊と木花開耶姫の結婚の媒酌をされたのは、この神社の祭神であったと言う。昭和二十年以前は県社で、旧田布施村の総鎮守。（南さつま市教育委員会：平成五年）

元来は、金峰神社（蔵王堂）が元宮であり、日枝神社（観音寺跡）が中宮で、多夫施神社（金蔵院跡）が里宮であり、山口神社ではないか。位置関係を考慮すると、そういうことになる。

<http://blogs.yahoo.co.jp/yan1123jp/7304836.html>

鹿児島県南さつま市金峰町尾下



## 大阪護国神社

昭和 13 年（1938 年）に大阪府知事・大阪市長らが護国神社造営奉賛会を結成し、昭和 15 年（1940 年）5 月 4 日に鎮座祭が行われた。ただし、人材・資材の不足のため正式な社殿の建築をする事が出来ず仮社殿での鎮座であった。その後正式な社殿の造営を行う予定であったが、大東亜戦争（太平洋戦争）の激化や敗戦後の混乱により着工出来ないままであった。昭和 35 年（1960 年）に造営奉賛会が結成され、昭和 38 年（1963 年）春に社殿が竣工し、5 月 29 日に遷座祭が行われた。敗戦後の一時期、GHQ による神道指令の影響下における存続対策として「浪速宮（なにわぐう）」と称していた。

昭和 45 年（1970 年）7 月 15 日 昭和天皇と香淳皇后が親拝。

昭和 53 年（1978 年）5 月 31 日 皇太子・皇太子妃（今上天皇・皇后）が参拝。

平成 21 年（2009 年）10 月 24 日 特攻勇士の像を建立。

大阪府大阪市住之江区南加賀屋 1 丁目 1-7 7



## 刈田嶺神社

宮城県神社庁の説

当地の伝説では、当初は第 2 代天皇の綏靖天皇を祀っていたとされ、神社として創建されたと考えられる。その後、白鳳 8 年（679 年[4]）に、役小角が大和国（現奈良県）の吉野山から蔵王権現を現在の不忘山に奉還して周辺の奥羽山脈を含めて修験道の修行の場とし、「蔵王山」と呼んだ。すると当社はいつしか「蔵王大権現」と呼ばれるようになった。平安時代後期の前九年の役の頃になると、安倍氏が当社を氏神と見なして神殿の改築したという。戦国時代になると、当地は出羽国（山形県側）に本拠を置く勢力の下に入り、当社は甘糟氏が管理したとされる。当地が伊達氏の勢力下に入ると、当社を守護神と見なして片倉小十郎に管理させ、伊勢神宮に倣って 21 年毎の改築（遷宮）を始めた。伊達政宗が仙台藩をたてると、仙台城の鬼門（北東）除けを金華山（黄金山神社）、病門（南西）除けを当社と見なして重要視するようになる。明治維新で神仏分離が行われると明治 5 年（1872 年）4 月に「水分神社」と改称するが、明治 8 年（1875 年）には「刈田嶺神社」に改称して郷社となった。

蔵王町の説

平安時代に修験道開祖の役小角の叔父にあたる願行が、吉野山の金峯山寺蔵王堂から当地の奥羽山脈の山頂に蔵王大権現を分祀し、青麻山東麓に僧坊を構えて修験道の修行を行った。そのため、修行の場となった当地の奥羽山脈は「蔵王山」と呼ばれるようになった。僧坊には修験者が集まって拡大し、願行の死後には僧坊跡地に「願行寺」を建て、「願行寺四十八坊」と呼ばれる修験道の寺院となった。平安時代末期（12 世紀末）には奥州藤原氏の庇護も受けたが、奥州藤原氏が滅亡すると衰退が始まり、戦国時代には兵火による焼失も加わって戦国末期（16 世紀後期）には 3 坊まで減少してしまった。

存続した 3 坊の 1 つに、住職がいない小寺院「嶽之坊」（だけのぼう）があった。同寺は遠刈田温泉に所在し、江戸時代になると「金峯山蔵王寺嶽之坊」（きんぷせんざおうじだけのぼう）と号する真言宗の寺院となる。さらに、山頂の「蔵王大権現社」、および、遠刈田温泉から蔵王大権現社への参詣路「蔵王参詣表口」（ざおうさんけいおもてぐち）の管理も行った。

江戸時代後期（18 世紀末）になると、お蔭参りに代表されるような庶民の旅行が盛んになり、「蔵王大権現社」への参詣もにぎわった。すると同社と参詣路を管理する嶽之坊には住職が常在するようになった。また、山頂の「蔵王大権現社」へ冬季に積雪のために参詣出来ない不便を解消するため、冬季に麓の嶽之坊にある「蔵王大権現御旅宮」（おかりのみや）に季節遷座をするようになった。

明治維新で神仏分離が行われると、吉野では「蔵王権現」を神号とし、従前の僧侶が神官となった。これに従って当地でも明治 2 年（1869 年）7 月に「蔵王大権現」を「蔵王大神」へと改号。さらに同年 9 月、「蔵王大神」とは「天水分神および国水分神」の 2 柱であるとの解釈から、社号を「水分神社」（み

くまりじんじゃ)に改称した。なお、この時期に修験道の「蔵王大権現」を管理していた真言宗の嶽之坊は、神道の神社となった当社と合一したと見られる。明治8年(1875年)に「水分神社」は「刈田嶺神社」へ改称した。

宮城県刈田郡七ヶ宿町

## ■ 南方神社 596.06km - 阿部野神社 - 吉祥院 596.06km

### 南方神社

ふたつの鳥居を持ち、北向きに建てられている。もと池辺にあったが、宝徳二年島津九代忠国公が尾下砂田に勧請し、延徳二年島津友久公が砂田から尾下一手ヶ原に遷し、更に天文四年正月島津忠良公が在地(諏訪原)に遷したという。尚、御祭神を建御名方命と八坂刀売命とする説もある。建御名方命(タケミナカタノミコト)事代主命(コトシロヌシノミコト)

鹿児島県南さつま市金峰町尾下1985



### 阿部野神社

延元3年(1338年)に顕家が足利方に敗れて亡くなったと伝承される地に、明治8年(1875年)、地元の有志が顕家を祀る祠を建立したのに始まる。明治11年(1878年)2月27日[1]、東城兎幾雄・松本楚文ら15人[2]が東成郡阿部野村にある北畠顕家の墓を修繕し、社殿を造営したいと願い出た。大阪府は、建物と境内の面積、創建後の維持の方法、神官の受け持ちを定め、社地と墓地を区分した詳細絵図を添えてもう一度願い出るようにと答えた。請願者は400円を用意し、天王寺村内の土地の購入計画を立てた。再提出を受けた大阪府は、願いの通りにするよう請願書を添えて内務省に伺を出した。内務省は、神社創建は請願通り、墓は民間に任せず官費で記念碑を建てるべきと判断し、それが9月21日に太政官政府の決定として下された。しかしこの決定から創建まではなお曲折があった。大阪府は、北畠顕家の忠誠は楠木正成・新田義貞・名和長年・菊池武時らと同じだから、顕家を祭る神社にもしかるべき社格を定めるべきではないか、という内容の伺を同じ年の11月20日に内務省に出した。内務省は3年後の明治14年(1881年)11月16日に北畠顕家と北畠親房の二人を祭神とする別格官幣社の阿部野神社を阿部野村に創建する方針を固め、それが明治15年(1882年)1月24日に太政官の正式決定となった。社殿は明治20年(1887年)3月に完成し、鎮座祭は明治23年(1893年)3月に斎行された。

大阪府大阪市阿倍野区北畠3丁目7-20

### 吉祥院

天平9年(737年)勅願により行基が創建したと伝えられ、かつては円福寺と号していた。また、元は漆山村の観音屋敷にあり、後に現在地に移されたとも伝承される。承和4年(837年)の記録には出羽国守・小野宗成が済苦院を最上郡に建立したとあるが、これを吉祥院と比定する説もある。延文5年(1360年)に斯波兼頼が本堂を再建した。戦国時代から江戸時代にかけて山形城主であった最上氏の帰依を得て、天文12年(1542年)に最上義守によって寺が再建されたという。慶安元年(1648年)には江戸幕府より朱印地を与えられた。なお江戸時代初期には最上三十三観音巡礼札所の第1番札所とされ、慶長8年(1603年)に最上義光が納めた扁額には「奉納 第一番千手堂」とある。後に第三番札所となった。

山形市千手堂509

## ■ 日枝神社 606.43km - 吉野神宮 - 出羽三山神社 606.43km

### 日枝神社

観音寺の跡に山王社として祭る。創建年代は不詳であるが、天文四年島津忠良公が再興したとの口伝がある。例祭日は明治二十五年までは旧九月十九日であった。氏子の崇敬は厚く、以前は例祭には太鼓踊

りの奉納がある等、近郷からの参拝も多かった。明治五年五月二十六日吉利の日枝神社、伊作郷今田の日枝神社を合祀した。祭神/猿田彦命 鹿児島県南さつま市金峰町浦之名 2 5 7 9

### 吉野神宮

後醍醐天皇を祭神とする神社。建武中興十五社の一社で、旧社格は官幣大社である。旧社名 吉野宮。南朝の後村上天皇は、父の後醍醐天皇が延元 4 年（1339 年）に崩御した後、その像を吉水院に安置した。以降、仏教式の供養が行われていたが、明治時代に入って神仏分離により明治 6 年（1873 年）に吉水院を後醍醐天皇社という神社に改めた。2 年後に吉水神社と改称して後醍醐天皇を祭神とする神社となった。このとき太政官政府は官費（国費）で別の神社を創建する考えを表明したが、そのまま棚上げになって時が経った。

明治 22 年（1889 年）6 月 22 日に、後醍醐天皇を祀る官幣中社吉野宮の創建が、明治天皇の意向で決定した。明治 25 年（1892 年）に社殿が竣工して、吉水神社から後醍醐天皇像を移して遷座祭が斎行された。明治 34 年（1901 年）に官幣大社に昇格し、大正 7 年（1918 年）に吉野神宮に改称した。

奈良県吉野郡吉野町吉野山 3226

### 出羽三山神社

出羽三山は、出羽三山神社の社伝では崇峻天皇の皇子、蜂子皇子（能除太子）が開山したと伝えられる。崇峻天皇が蘇我氏に弑逆された時、蜂子皇子は難を逃れて出羽国に入った。そこで、3 本足の霊鳥の導きによって羽黒山に登り、苦行の末に羽黒権現の示現を拝し、さらに月山・湯殿山も開いて 3 山の神を祀ったことに始まると伝える。明治の神仏分離で神社となった。1873 年（明治 6 年）に国家神道推進の急進派であった西川須賀雄が官司として着任し、その際に廃仏毀釈が行われ、特に羽黒山において、伽藍・文物が徹底的に破却された。その結果、別当寺が廃され神社となって 3 社を 1 つの法人が管理することとなり、出羽神社に社務所が置かれた。旧社格は月山神社が官幣大社、出羽神社・湯殿山神社が国幣小社である。戦後、神社本庁の別表神社となった。山形県鶴岡市羽黒町手向



## ■ 知覧平和観音 616.77km -大神神社三鳥居 - 大物忌神社 616.77km

### 知覧平和観音・知覧特攻平和会館

この地は、昭和 16 年大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所が設けられて連日隊員の訓練を重ねたところであり、国際情勢が次第に緊迫し険悪となるにしたがい、遂に昭和 20 年 3 月本土最南端航空基地として陸軍最後の特攻基地となり、若き勇士がこの地から飛び立ち雲流れる果てに散華した思い出深い土地。

知覧町では、特攻勇士が身を以って示された崇高至純の殉国精神を顕彰し、世界の恒久平和を祈念するため、旧知覧飛行場跡に特攻平和観音堂を昭和 30 年 9 月 28 日に建立し観音像を安置しています。

この観音像は、大和法隆寺の夢殿に奉安してある秘仏「夢ちがい観音像」を特別のお許しを受けて謹鑄した一尺八寸（54 センチ）の金銅像で、当時の航空総軍司令官河辺正三大将、第 6 航空軍司令官菅原道大中将のお二人が知覧に是非お祀りしたいと持参されたのが知覧特攻平和観音像であります。この観音像の体内には特攻勇士の芳名を謹記した巻物が奉蔵されており、毎年 5 月 3 日には知覧特攻基地戦没者慰霊祭が厳粛に挙行されています。鹿児島県南九州市知覧町郡 1 7 8 8 1

### 大神神社三鳥居

式内社（名神大社）、大和国一宮、二十二社（中七社）。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁の別表

神社。神武東征以前より纏向一帯に勢力を持った先住豪族である磯城彦が崇敬し、代々族長によって磐座祭祀が営まれた日本最古の神社の一つで、皇室の尊厳も篤く外戚を結んだことから神聖な信仰の場であったと考えられる。旧来は大神大物主神社と呼ばれた。三輪山そのものを神体（神体山）としており、本殿をもたず、江戸時代に地元三輪薬師堂の松田氏を棟梁として造営された拝殿から三輪山自体を神体として仰ぎ見る古神道（原始神道）の形態を残している。三輪山祭祀は、三輪山の山中や山麓にとどまらず、初瀬川と巻向川にはさまれた地域（水垣郷）でも三輪山を望拝して行われた。拝殿奥にある三ツ鳥居は、明神鳥居 3 つを 1 つに組み合わせた特異な形式のものである。

大神神社を日本最古として紹介している歴史的に無知な人が非常に多い。その神社はこう言って誤魔化すことだろう「名前が変わっただけです」否、歴史のあった三輪明神と新興宗教大神神社は全く別物であるからその真相は違う。三輪明神大神神社としていること自体がおこがましい話である。明治初年、日本の神道そのものが滅亡したのだ。

奈良県桜井市三輪 1422

## ■ 墓地？ 616.79km - 大神神社拝殿 - 大物忌神社 616.79km

### 墓地

そこだけ耕作されないで残されてある。大切な方の墓があるのでは。

### 大物忌神社（蕨岡）

蕨岡の「鳥海山記并序」（宝永 6 年、1709 年）では、役行者が開山したとする前提で、行者がはじめて山に登ったとき、「鳥の海」をみたことから「鳥海山」と名づけられたとしている。なお、社の創建のとき、山に名称はなく、現在の「鳥海山」という山名ができた由来には諸説あり、山上にあつて霊鳥が生息すると言い伝えられる「鳥の海」によるとする説が有力である。蕨岡に伝わる他の縁起では、「鳥海山縁起和讃」（嘉永 5 年、1852 年）に、天武天皇のとき、山の神の命により、役行者が山中に出没する鬼を退治し、開山したと記されている。この縁起は、吹浦に伝わる慈覚大師（円仁）の創建とする説よりも年代を古い説を唱え、対抗しようという意図がみられるとされる。

関連して、蕨岡の東之院興源は「出羽国一宮鳥海山略縁起」（安政 4 年、1857 年）の中で、役行者が山中に神の眷属である三十六王子を祀り山の守護神としたという記載があり、実際に、蕨岡では山道に三十六王子を祀っていたという。

中世本地垂迹説の唱導により神佛混沌以来当神社は吹浦の神宮寺蕨岡の龍頭寺に於て社僧奉仕するところとなったが明治三年神佛分離に際し神式を以て奉仕することとなり、明治四年吹浦大物忌神社を国幣中社と定められた。松方正義の意見により、明治 13 年(1880 年) 8 月 7 日、左大臣有栖川宮熾仁親王から、山頂の権現堂を大物忌神社の本殿とし、吹浦と蕨岡の大物忌神社を、それぞれ里宮(後に口ノ宮)とする旨の通達が出され、明治 14 年に実施されたため、両者の争いは収束した。この変則的な祭祀体制は、吹浦と蕨岡のそれぞれに国幣中社大物忌神社の社務所を置き、宮司は吹浦に駐在するが、本殿への奉幣は両社務所が 1 年交替で行うというものだった。山形県飽海郡遊佐町上蕨岡



### 備考

小泉純一郎元首相の故郷と聞く。山口県田布施と同じ地名を持つのは同じ一族だからか。知覧平和観音そして知覧特攻平和会館そのものとも繋げ、騙されて死んでいった特攻兵達と家族、訪問者の悲しみの気を利用している。

大神神社は明治以前には存在せず、歴史ある三輪明神と新興宗教大神神社は全く別物であるらしい。

<http://ameblo.jp/hirohito33/entry-11874704010.html>

## 山口県田布施 と 鹿児島田布施



■ 石城神社（山口）323.16km - 多夫施神社（鹿児島） - 日本神社（山口）323.16km

### 石城神社

敏達天皇3年（574）石城宮の勅額を下賜。国史では、貞観9年（867年）に「石城神」の神階が正五位上から従四位下に昇叙された旨が記載されている。また、延長5年（927年）成立の『延喜式』神名帳では周防国熊毛郡に「石城神社」と記載され、式内社に列している。

嘉禄3年（1227年）3月の「周防石城宮神官解」では、神社に係る紛争のことが見える。文明元年（1469年）7月には大内政弘により現在の本殿が造営された。この本殿は、永正11年（1514年）に大内義興により、明暦2年（1656年）に毛利綱広により、寛政10年（1798年）に毛利斉房によりそれぞれ修復が行われた。また、安政4年（1857年）には毛利敬親により拝殿と神護寺仁王門（現在の石城神社隨身門）が造営されている。

近世には「石城山式内三社大権現」と称され、石城山を山岳霊場とする信仰が形成されていた。明治維新後、明治6年（1873年）に近代社格制度において郷社に列し、大正2年（1913年）に県社に昇格した。また、かつて神社の西側には別当寺の石城山舎那院神護寺があったが、明治3年（1870年）に廃寺となっている。

境外社の宇和奈利社が本来の石城山の神であったと見て、山城築造に伴い朝廷から大山祇神・雷神・高禰神が勧請され、宇和奈利社に代わる山城の守護神として石城神社が創建されたとする説もある。神社のある石城山は西の高野山と呼ばれていた。

山口県光市塩田



## 多夫施神社（勝手大明神）

祭神/受鬘命（うけのりのみこと）と塩土神  
由緒 創建は聖武天皇神亀元年（724）と伝えられ、明治以前は勝手大明神と称していた。島津家歴代の藩主の信仰が厚く、鎧・刀・和歌等が寄進された。伝説によると、瓊々杵尊と木花開耶姫の結婚の媒酌をされたのは、この神社の祭神であったと言う。昭和二十年以前は県社で、旧田布施村の総鎮守。（南さつま市教育委員会：平成五年）

元来は、金峰神社（蔵王堂）が元宮であり、日枝神社（観音寺跡）が中宮で、多夫施神社（金蔵院跡）が里宮であり、山口神社ではないか。位置関係を考慮すると、そういうことになる。

<http://blogs.yahoo.co.jp/yan1123jp/7304836.html>

鹿児島県南さつま市金峰町尾下



## 日本神社

宗教団体・神道天行居の神社。

神道天行居（しんどうてんこうきょ）は、友清歆真（ともきよ よしさね）によって創始された古神道系の新宗教団体。秘密結社に分類される事もある。本部は、山口県熊毛郡田布施町の石城山の麓。現在でもユダヤ陰謀論を信じ、「靈的国防」を唱えている。

前身は友清歆真が1920年（大正9）に創設した霊学の実践団体（格神会）である。1927年（昭和2年）には石城山上の石城神社での神示（山上の天啓・十の神訓）があった。

1931年（昭和6年）、井口寅次に宗主職を譲り、友清は顧問となったが、1934年（昭和9年）、内紛のため井口の宗主の地位を剥奪された。

戦前には、道士の松浦彦操が離脱し、太古神法を松浦家の家伝とした。

終戦直後には宮地水位の道術を継承した正井頌益（教団の傘下の教会長）・清水宗徳（本部職員）が離脱し、それぞれ宮地水位の道術を継承して古神道仙法教・神仙道本部（土佐五台山）を興した。

友清は、ユダヤ人の陰謀による日本への攻撃、すなわち武力戦・生産戦・思想戦に対して霊的方面から援護するという「靈的国防」を提唱した。これを実現するために、天行居では、友清の指示により、1927年（昭和2年） - 1952年（昭和27年）の間、白馬岳山上、中朝国境の白頭山頂の天池、武甲山上、洞爺湖、台湾の日月潭、琵琶湖、富士山麓、十和田湖、明石海峡に神霊を鎮め、国内の神霊については、現在でも毎年、現地で例祭を執行している。これらの神霊のうち白頭山天池の神霊を最も重要なものとしている。

友清によると「太古神法とは、神事の根元をなすもので、天孫降臨以来、皇室で傳承されていたが、倭姫命以降、代々の齋宮に口伝で相傳されてきた秘事」だという。

友清は、京都の堀天龍齋から1927年（昭和2年）に相傳を受けたとされ、この太古神法を傳承していることが、天行居の靈的權威の最大の裏付けとしている。

本信者であった友清は、「大正十年頃、欧州大戦に引き続き、日本対世界の戦争が起き、さらに天災地変も同時に起こり、一人も助からない」など、社会不安や危機感をあおり立てた。

石城山にあるほかの神道天行居の神社/磐山神社/五十猛神社/物部神社/葦原神社/石城島神社/天龍神社  
山口県光市大字塩田 2233 番地

## 備考

鹿児島県の多夫施神社から岩城神社に気を引き寄せるために、同距離に日本神社を建てた。写真を見ればコンパスの円周ラインが日本神社の本殿と岩城神社の建物にきちんと載っているのがわかる。



■ 知覧平和観音 328.35km - 岩城神社 - 長興寺住吉神社 328.35km

#### 知覧平和観音・知覧特攻平和会館

※上記参照

#### 石城神社

※上記参照

#### 長興寺住吉神社

祭神/上筒男大神（うはつつのおのおお  
かみ）中筒男大神（なかつつお）底筒男  
大神（そこつつお）  
神功大神（じんぐう）

当社の創建は定かではありませんが、凡そ六百年の歴史を持つとも謂われる由緒ある神社です。全国に数多く存在する住吉神社と同様に、住吉三神をお祀りしており、長興寺地区の氏神として人々から崇められています。古くから水の神様として旱魃や水害から田畑を守ってもらうよう祈り、神社北側にある皿池公園では雨乞いの秘儀が行われていた跡があります。

大阪府豊中市長興寺北2丁目3-43



#### 備考

サイトで特攻隊員が出撃前日に過ごした三角兵舎の写真が紹介され「特攻隊員たちはみな、笑顔で飛び立って行きましたが、ここでは布団にうずくまって泣いていたそうです」とあった。死に行く隊員達の気持ち、その親の気持ちを思うと泣けてくる。

このしくみもまた、平和観音に集まったそんな特攻兵達と家族や訪問者の悲しみの気と、住吉神社の武神の気を合わせて、田布施システムの中心祭祀場の岩城神社の力にしている。戦争が本当に天〇家一族のしくんだものであるとしたら極悪非道といえる。



